

地域中核大学イノベーション創出環境強化事業 令和6年度採択校
3年目アワード審査に関する所見

国立大学法人岩手大学
岩手大学

(審査・評価委員の所見)

- ・I-waRP は順調に進んでいるようで素晴らしい。ただ、このシステムの高度化と重点化という申請の趣旨は分かるが、これに具体的にどれほどの資金が必要なのか、高度化とはどこまでを目指しているのかはもう少し検討が必要。
- ・広大な実証フィールドが大学に近接しており、研究開発できる環境であるのは評価できる。一方で、ここでしかできないデータ収集、世界的にもユニークな研究環境をどのように整備しプラットフォーム化するのかをより突き詰めていただきたい。
- ・学長主宰の成長戦略会議のもとで I-waRP が運営されており、強固なガバナンス体制が構築されている。大学全体が一体となって地域産業への技術移転を推進している点を評価したい。
- ・本事業開始後、外部資金獲得額の増加が認められる。I-waRP を通じた関係機関との連携体制も整備されており、今後の研究プロジェクトのさらなる活性化が期待される。
- ・JST や AMED のような大型研究に採択されており、外部資金が増加している点を評価できる。
- ・I-waRP の設立後どのような具体的な成果が上げられるか、早期の成果物を期待したい。
- ・民間企業との共同研究・協業で実績を上げて欲しい。
- ・岩手ならではの特色のあるプログラムである。学術的先進性をもう少し明らかにしてほしい。

地域中核大学イノベーション創出環境強化事業 令和6年度採択校
3年目アワード審査に関する所見

国立大学法人秋田大学
秋田大学

(審査・評価委員の所見)

- ・地域貢献を人材育成の面から支える方向やスタートアップの戦略も計画としては評価できるが、そのアウトプットを具体的に示すべきではないか。今回のアワードの資金で幾分かの埋め合わせがなされることを期待する。
- ・産業戦略を起点とした規制・標準・認証の一体的設計を担う組織として LLC が中心となり産業クラスター形成するような具体化を期待する。
- ・当初構想で中核技術に据えていた「電動化システム共同研究センター」の取組における成果が十分に創出されていないように感じる。
- ・大規模電動化実証試験の整備を進めており、TOP10%論文の増加も認められる。アワードにより電動化システム共同研究センターを拡充していく構想だが、外部資金の拡充も含め、まだこれからという印象を受ける。
- ・電動化システム技術の中核とした研究開発力の強化・人材育成・研究マネジメント体制の確立、スタートアップ創出の循環モデル強化について、大学トップの強いリーダーシップの確立と学内コンセンサスの強化に努めて欲しい。
- ・スタートアップ創出など積極的な取り組みを評価する。県外、海外への展開にも尽力してほしい。

地域中核大学イノベーション創出環境強化事業 令和6年度採択校
3年目アワード審査に関する所見

国立大学法人北海道国立大学機構

帯広畜産大学

(審査・評価委員の所見)

- ・貴学には、畜産という重要な産業に特化する仕組みを構築されている点を期待している。今後は、北海道全体でのユニークさを出すためにも、北海道大学との連携もより考えてほしい。
- ・モジュール型実証研究システムを構築し、共同研究単価を上げる取り組みも功を奏しており評価できる。海外実習農場も含めたグローバル基盤の構築や国際連携について、今後当該プラットフォームを活用した食のグローバル展開に期待する。
- ・外国人博士人材をARAとして雇用する取り組みをより進めていただきたい。
- ・本事業の中核エリアは北海道十勝地域と整理されているが、地方大学・地域産業創生交付金事業の中核エリアも同一地域であり、説明においても十勝地域における両事業の役割分担や位置付けの違いが不明確であった。
- ・本事業により、次世代農畜産技術実証センターの設置などが進み、着実に成果が増加している。アワードによって学外および海外の実証農場の強化が図られ、外国人博士人材の活用なども進むことが期待される。地球温暖化の進行を踏まえ、国際的な農業研究の発展が一層促進されることを期待したい。
- ・ARAの活用についての好事例を積み上げてURAとは異なる機能として学界で認知されるよう努力して欲しい。
- ・海外展開の具体的成果に期待する。
- ・国際展開が本プログラムの特徴であるが、学術的な先進性をもう少し示してほしい。